

新鑄

椿説弓張月

續編 卷貳

13  
2945  
14





門へ13  
號2945  
卷14

昭和九年七月九日 購末

鎮西八郎 爲朝外傳 椿説弓張月續編卷之二

東都

曲亭主人編次



この巻ハ琉球國の開闢より天孫氏二十五世尚寧王中山世宗の在位十八年の事であるなり。

日本 近衛帝久壽二年不當なり。かれハ爲朝十七才の

と見出して阿蘇の忠國が壻となりて九州を討ちさぐへるひは

ころるべし。前後二編の文の叙すがが國の事を説きたり。さて

續編小至く。琉球の事ハ説起るが故に年序錯乱せる

小似たり。閱者さうし多ひね次の巻も亦この例に倣ふを志すべし。

第三十三回

毛國辨が忠利勇を説破せ  
君真物の神王宮不出現ハ

吉野田原







尚寧王といふ。その時君徳を衰て社稷將小傾覆人とて事の濫觴  
 をとらるる。彼尚寧王才短く慮足らば王妃中婦君濶して妬はく  
 倭人利勇亦權を執り政を放あせしふより。此に尚寧王國頭の按  
 司司馬順徳が女兒を納て王妃とせんとなす。故ありてこれを止國相利射が  
 女兒を納して中婦君とし琉球少の王妃を順徳が女兒を並妃並妃の妃と前  
 編第ニ卷小入えたる。廉夫人是也。あるに中婦君の才も世小勝して飛燕  
 賈后の媚あり。王そのを惑溺し内外の事悉そのの所を用ざれり。まじ  
 加梅國相利射の近曾才より。その怪紫中宦利勇政をすつらほ。君を  
 欺と民を虐浮雲の驕を極めし。天孫氏二十五世一万七千七百八十余年  
 の仁政忽地上廢れて國人叛と離んとてこのとれ世子なくて廉夫人の腹小  
 王女只一人出生あり。尚寧王とす。年の齡四十小向んとせしとれ誕生あり

利勇が子  
中山傳信  
録卷之三  
小入えたり

初子なり。これ以寧王女と名づけて鍾愛大う。ついで天孫子世の國王  
 あり王子なれどもこの王女小位を侍する。舊例もあれば中婦君のゆくすゑ  
 のゆををひやうやも。妬とことかざりるれど。彼廉夫人へよろづは慎はく  
 聊も寵をくめて驕慢の氣をなく。毎事小謙遜して中婦君を敬み  
 あそ憎しむとひなぐ。足をあしきまにひひらとべれやううて黙止  
 ちつさう後お寧王女の成長も隨ふ。顔色の情なれり。へがましくし孝  
 公よのつひ小勝とてその怜惻と丈夫といふも及ぶる。みまうり。こを以  
 て尚寧王といふ。愛意この王女小位を侍むや。と多ひまの段お寧王  
 女とや。十四才あそなり多ひね。抑琉球その國偏小はして南北長々四  
 十余里東西の狭くして十里小過ざとる人六十町を一郡とす。その都と首里といふ  
 この餘の郡縣と間切と唱その地の領主を按司といふ。官位の品級正



後とて九等あり。國相元侯ハ正一品法司ハ正二品紫中官と從二品  
 又御鏡衛ハ正三品謁者一名申ハ後三品贊議官ハ正四品那霸官ハ後四  
 品察侍紀官ハ後四品那霸佐敷當座官ハ正五品勢頭官ハ正六品親  
 雲上ハ正七品提牌金ハ從七品里之子と正八品里之子佐と從八品  
 筑登之ハ正九品筑登之佐ハ後九品この外紫金大夫正議大夫長吏  
 都通度支官王法宮九引官内宮近習内厨國書院良醫所  
 茶道祝長ホの杖奉小違のトビかくて尚寧王ハあり日この諸司百  
 官を龍宮城の正殿ニ集合寧王女と世子として琉球二顆の珠を附賜  
 廉夫人とも中城の世子殿を移さんとそのはしをマエちしとすうのふ  
 衆皆答まうひやう。か君齡半百ふ及び多人も王子おしまらん。ちくれ

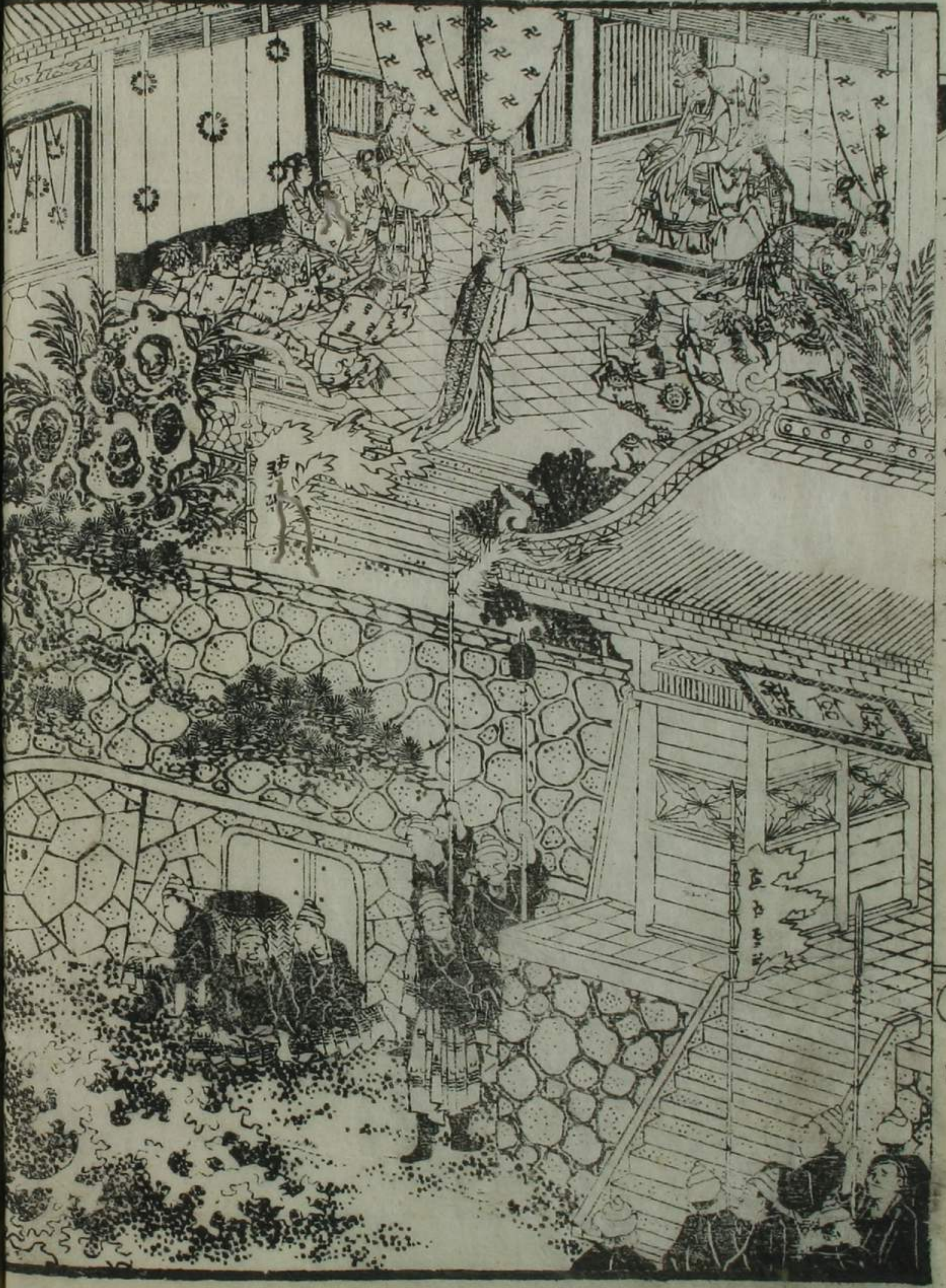
とも王女孝順はして且聰明膚智なり。これ小位を侍多らんハ民の望  
 とくはして國の幸甚。夫中城の間切ハ世々の王子の采地あり。世子ハ  
 かろふに彼処ニ移住するてせよ中城殿と稱ふ今日ハ是福星貴人  
 の吉日なり。常言ハ甲丙相邀入虎御更逢鼠位最高強と云々速中  
 瓜定ちり入し。と祝せらうせ。かハ尚寧王女とふ故び。ちて里之子とて  
 中婦君寧王女廉夫人を迎ふ。緋の紐を脱ちしつ。ちやくしく珠の  
 匣を捧りて王女小授んとし。あみそ。中婦君女ハ敬馬と。そと注目ちの  
 ちうハ紫中官判勇。忙しく斑をそと出。殿下をらみ。小臣がまうひのち  
 ち人往古天孫氏この國を因れ多ひ。より以來年ハ一万七千七百八十餘  
 年ふ及び。御代ハ五五の今ハ傳人多ふ。王子おしまらん。れハ王女ニ讓  
 位ちまはし。古くよりいふのこめて。近と世ハその例をまうと。とす。





龍宮城  
大司諸司百官の要心

春日八兄乃受月讀宮用卷之二



春日八兄乃受月讀宮用卷之二



殿下も人年五十ふ及せまも。さほ壯健あえまひ加之中婦君の未  
三十のそくは。多くも過るもの。男子ハハ六十四世して陽道閉女子ハ  
七七四十九あり。陰道閉この故も。老る子次生りのなれ。あふむ。これ  
が。の。後。王子。誕生。し。ま。は。じ。も。ひ。定。め。は。し。これ。二。王。女。天。性。伶。俐  
あ。ら。せ。も。女。流。あり。世。の。常。言。ふ。才。女。の。置。く。た。る。人。より。愚。夫。の。黙。く  
され。と。し。り。ま。が。王。百。年。の。後。王。女。の。國。を。御。さ。る。大。臣。政。を。放。し。り。君。の  
威。德。衰。る。ん。これ。と。この。と。の。可。ま。が。れ。を。り。て。吉。凶。い。う。め。と。う。ま。ま。  
讓。禪。授。受。の。國。の。大。事。も。保。存。亡。の。一。挙。お。め。り。て。禍。蕭。牆。の。下。より  
起。らん。欽。よ。り。聖。慮。を。や。ぐ。ら。れ。べ。う。り。や。と。言。語。を。巧。は。し。く。と。は。む。  
お。ま。ま。の。後。威。也。や。怕。れ。ん。込。小。面。を。あ。い。つ。婦。も。言。を。出。す。の。は。  
こ。ろ。ま。ま。と。尚。寧。王。ハ。忽。地。よ。と。ひ。感。ひ。且。く。沈。吟。く。あ。ら。が。い。う。は。して。

よ。う。と。え。と。同。し。利。勇。答。て。思。案。成。り。て。す。う。ま。ハ。世。子。と。定。め。ら。れ。ま。し。て。  
還。り。ん。王。子。誕。生。す。は。ま。ま。ハ。德。長。く。大。臣。と。女。婿。に。て。國。を。讓。り。ん  
こ。と。長。久。の。計。り。ぬ。今。日。の。や。め。ひ。と。ま。ま。り。ま。し。と。い。ふ。の。為。体。傷。お  
人。な。れ。が。ど。し。時。め。左。邊。の。班。を。と。く。と。出。く。声。を。勵。し。君。王。い。う。な。ら。ば。  
利。勇。が。巧。言。小。惑。さ。れ。て。國。の。大。事。を。誤。ら。せ。や。こ。い。ふ。の。の。り。け。り。  
衆。人。驚。き。これ。を。見。か。と。ば。その。人。年。紀。ハ。二十。有。餘。は。して。ま。ま。白。く  
眉。秀。眼。も。鸞。鳳。の。ま。く。口。ハ。真。朱。の。ま。く。声。ハ。巨。鐘。に。似。たり。以。て。金  
の。替。り。て。紫。綵。の。官。帽。を。載。れ。身。ハ。深。青。の。袍。を。被。り。龍。蟠。の。紋。の。る。  
黄。う。る。帶。ハ。結。ぶ。り。この。人。ハ。これ。前。國。相。毛。公。が。子。國。頭。の。按。司。司。馬。順。德  
が。姪。あり。けれ。中。城。の。按。司。毛。國。興。あり。當。下。毛。國。興。領。首。と。て。ま。ま。い  
申。り。利。勇。之。箇。條。の。不可。と。述。く。世。子。を。定。め。ら。れ。む。が。阻。し。その。言。理

毛國興が  
の中小侍  
信録卷之  
二ノ一





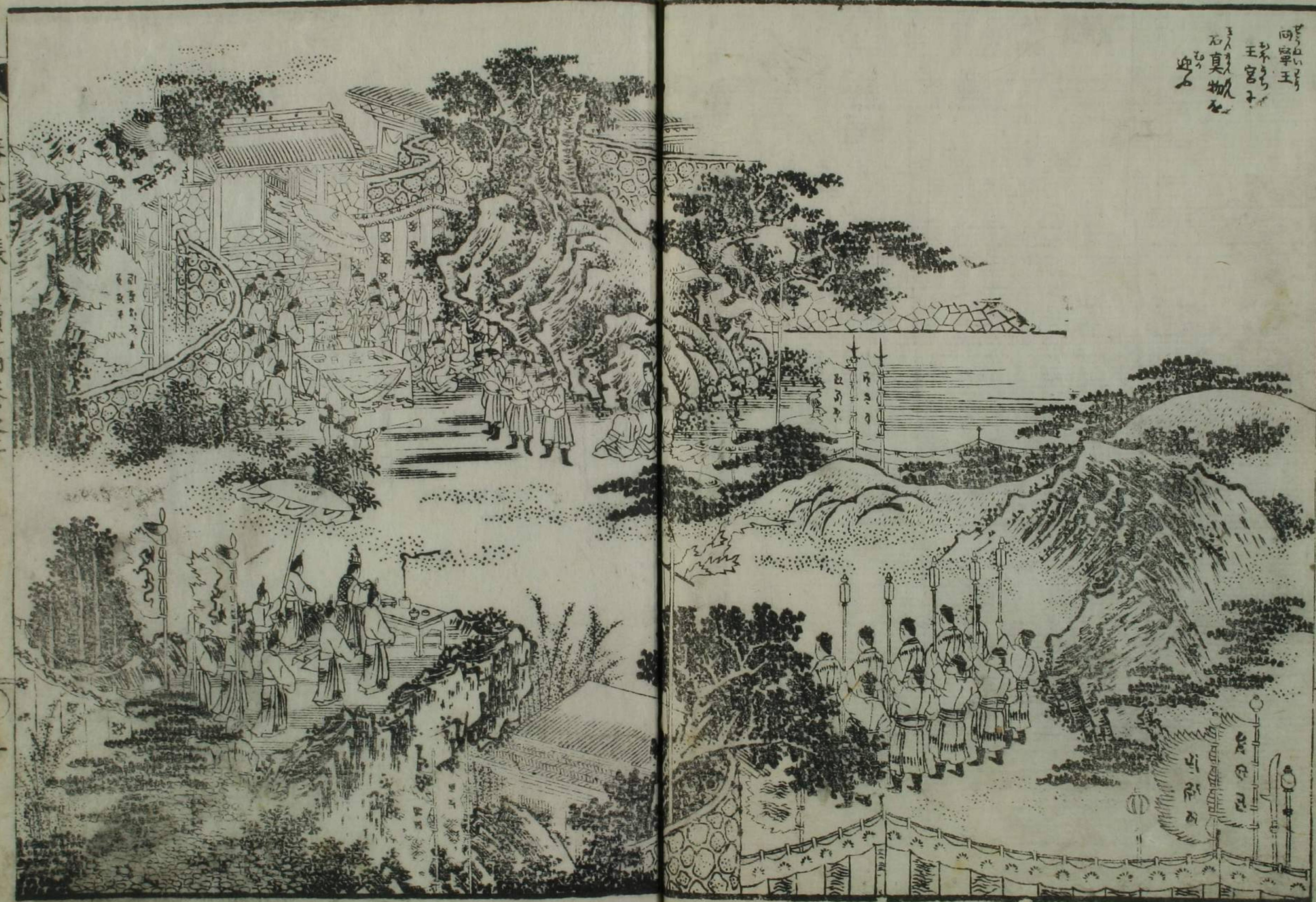












同聖王  
王宮子  
石真物  
迎

本言正別月結篇卷之二

春説の長月結篇卷之二

六





稱く上國王より下民かゝるまでかここ祭るるゆきなんその神の生れた  
 まる小年の八九月のひめをうとりありのあゝのれ譬言が之の磐石五之  
 鮮明なる種くの莊嚴とて列そその山を覆ひ場をがごとし因るその  
 山をあをりか嶽と唱ふし神の出現道たゝありとて待ちて不果してその  
 十月廿五にて件の荒神出現とそのとれ託女と王の臣下亦あつて鼓  
 をうち歌やうとひてこれを迎引く王宮の庭上小至り傘二十本餘り  
 其建く神の行宮とそその傘に大小あり大れ中かこれの高サ七八丈其  
 輪十尋ふあまの小まれのとりくも高一二丈輪ハこれ小准と又山  
 の神のゆりうことありその数或を多く或ハ少く年よりうと教  
 定まし人面あり彼山の神をえうふその相負ハ矇矓にして定らる  
 らゆど衣裳ハ袖の長と被るがその衣裳支地ハ斐ハてあふひ

本言正野片紙卷之三十一



錦繡のてく。或ハ麻衣のて。件の山の神。ゆりの重。成りし従へ。この  
 名を二郎五郎と唱ふ。これが衣裳の日本の製。ふふしく。小袖。袴  
 なり。山の神。ぬるみありて。童。成。鞭つと。あれ。童の鳴声。犬の如し。  
 又。あらしさう。一書。ふふ。と。いふ。流神のあり。つ。みあり。その神の身丈  
 一丈。あ。ま。り。は。て。畢。九。附。二。丈。あ。ま。り。より。く。視。を。結。び。て。肩。掛。く。これ。が  
 の神。成。さ。る。君。真。物。と。稱。ふ。是。さ。る。に。浮。く。物。語。あ。れ。日本  
 僧。彼。國。ふ。の。り。た。れ。日。正。む。く。え。る。よ。し。骨。董。録。中。琉。球。事。略。不。載  
 られ。又。五。雜。俎。不。謝。在。杭。が。云。中。國。の。人。琉。球。ふ。い。り。彼。代。く。治。危  
 さ。る。りの。親。神。の。出。現。さ。る。ん。と。い。ふ。その。声。鳴。く。として。蚊。の。如。し。と  
 い。り。か。く。奇。し。い。り。あ。り。と。い。ふ。も。五。穀。を。傷。ひ。國。人。を。害。あ。る。り。な。り  
 志。是。年。山。の。神。水。神。と。荒。と。賤。り。て。海。山。の。掙。了。その。便。れ。を

う。し。う。ひ。熊。夫。漢。翁。未。し。う。ら。ち。歎。く。は。し。その。け。え。あり。られ。中。婦。君  
 崎。々。飲。び。竊。小。行。勇。と。示。あ。い。して。腹。心。の。りの。成。知。く。の。間。切。不。遣。し。  
 國王。忠。臣。の。諫。を。聽。ま。り。て。寧。王。女。を。中。城。へ。移。し。世子。不。立。ま。り。ふ。あ。る。よ。  
 君。直。物。の。め。と。神。怒。り。て。この。禍。を。降。し。あ。と。と。い。り。せ。た。れ。され。一。犬。形  
 を。吠。て。群。犬。声。不。吠。る。う。い。ひ。な。れ。この。風。声。雷。と。して。巷。子。満。て。り。  
 か。り。ける。後。高。寧。王。の。この。流。言。を。傳。へ。た。大。お。驚。れ。俄。頃。不。中。城  
 の。按。司。毛。國。掛。を。召。す。緯。の。趣。を。言。え。ま。し。虚。実。いと。公。り。し。は。郷  
 へ。何。と。う。あ。つ。れ。と。同。し。毛。國。掛。答。へ。ま。で。ふ。さ。る。の。ゆ。き。これ。ハ。王。女。が  
 何。し。は。ぬ。み。か。り。い。し。む。い。んと。計。較。り。の。流。言。を。言。あ。て。あ。ん。が。ら。ん。  
 彼。君。中。城。不。移。り。か。り。は。し。て。い。う。行。ひ。を。慎。み。半。兵。の。お。ん。恨。か。れ。よ。  
 諸。神。これ。を。咎。ま。し。溜。ま。し。勢。実。と。な。ま。し。居。れ。と。官。帽。を。か。ら。み。け。る



回答せしむ。尚寧王もさく眉を頻め。あかりといへども國民亦豊  
 見城不至。拔楔。或は処の拜林。不至て祭り慰め。され又近曾  
 雲城。おかりして祈禱。その外北谷。うる海神高嶺。田丸山  
 乃れ虫塚。上蔽巾帛を進。さうふ。終小意論なれ。その有あへし。  
 卿もさく退け。され好む。思念せん。と宣さる。も毛國將。はは理  
 を盡して。王女のうへに。神の咎。宣示さる。なれば。しをさし。明。中  
 中城へぞ退りぬ。その時中婦。君の五十一を竊。簾をか。さる。  
 冷笑ひつ。毛國將。を目送り。殿下。し。曉得。や。彼毛國將。を  
 廉夫人。が後身。なれば。王女。小この國を。あ。のれ國相。と。うりて。威勢  
 瓜。あ。の。んと。計校。曩。も。言。を。巧。して。王女。中城。の。世子。殺。遷。し。  
 今亦。辨。舌。な。ら。う。て。君。を。惑。し。な。る。こと。いと。憎。け。と。罵。る。王。忙

ちく。え。う。り。て。や。う。て。王。中。城。に。う。ら。居。し。賢。妃。の。し。所。も。理。あり。彼。が  
 ま。う。の。所。も。理。あり。され。暗。く。さ。ひ。涕。め。じ。誰。う。この。利害。論。ど。て。  
 事の。吉凶。を。定。む。べ。し。と。同。中。婦。君。か。う。み。て。紫。中。官。利。勇。力。の。心。  
 さま。忠。義。歎。く。且。遠。れ。慮。あり。ま。ど。て。彼。死。る。て。同。多。り。る。王。女。が。う。へ  
 わ。し。と。と。て。継。母。の。腹。さ。う。う。あ。う。ま。う。ひ。う。と。君。も。も。あ。り。れ。人。あ。も  
 い。り。れ。ま。ん。その。歎。れ。て。も。あ。ま。り。あ。れ。ど。國。の。為。あ。の。あ。ひ。う。の。由。な。し。用  
 あり。と。用。ひ。の。あ。が。れ。と。い。は。こ。う。あ。こ。そ。あ。る。べ。し。と。涙。に。じ。ご。う。か。れ  
 口。説。く。尚。寧。王。も。あ。へ。し。さ。が。利。勇。が。居。せ。と。て。左。右。お。仰。せ。て。連  
 忙。く。さ。る。に。且。し。て。利。勇。を。し。ら。ぶ。尚。寧。王。これ。を。ち。う。く。侍。ら。し。く。  
 毛。國。將。が。い。ひ。つ。る。の。一。五。十。次。説。あ。し。つ。卿。何。う。さ。へ。れ。お。ま。ま  
 ね。く。回。答。せ。よ。と。仰。され。の。利。勇。縁。由。を。う。ひ。ま。り。て。數。回。歎。息。し。ま。が















ところふ符合とて聖へのつとりて首里ふとあり。その夜を祈る。この夜は  
 神に進ませらん。今宵うねりの名残ある。なうらん後へともかくも。その言  
 せまへし。とりひうけて目次拭ひまへ。廉夫人は母もあへどうら驚れ。この  
 必ひもうけぬ。金の枝玉のころそふ世をもあらし。居るべし中城のおんが  
 みて。やや國の為にとて犠としうらん。と宣ふも。これを許さるん  
 や。かゝらんるひ。戯しめしも宣ふ。さうねいふ。佞人かゝら。眼を睜耳を  
 側つ。中婦君も告んとて。隙を窺ひけり。の成いと不覚し。と諫とば  
 寧王女かゝりて。いふ。さうねいふ。人のうらふ。見るといふ。女を公より外へ  
 あらうしく。人ふおとせらる。宿世ありまへ。況ん世を後位に嗣がば。  
 ようが影護も傷いしく。とる人。勅お中城へ遷されて。嫌疑の中へ  
 世に食ひ。高た梢の風は折らる。や忘色は。いんハ。さうねいふ。あは。身を

殺して仁をなし。國民を救ふ。神も憐し人も喜ぶ。その應報空しく。い  
 て王子誕生のうらん。あ。こよがれ國の洪福なり。王子誕生おとば。も王  
 孫にして。臣下おつとなれり。の。な。さ。お。し。も。た。ら。び。そのひとり二人といひ  
 ハ。清身が亡父司馬順徳。それが親族の毛國丹。うん。ど。こ。な。天孫氏の子  
 孫。う。ら。び。や。これら。が。子。も。成。養。ひ。て。位。を。傳。ふ。も。も。その既。ま。ひ。と。つ  
 形。他。の。邦。あ。り。子。も。傳。ふ。も。他。の。人。お。讓。り。る。成。聖。の。世。と。て。後。身。も。い。と  
 い。と。譽。り。と。せ。え。り。親。お。先。と。ら。な。り。ハ。悲。し。た。り。い。ん。も。傳。ふ。も。統。と。  
 病。て。墓。形。く。な。る。あ。ら。う。バ。さ。う。ね。い。ふ。も。い。う。ま。せん。何。れ。も。國。の。為。に。  
 と。思。ひ。涕。り。ま。り。し。つ。が。も。思。ひ。泣。け。り。と。い。ひ。慰。め。り。あ。も。そ。廉。夫。人  
 と。誠。す。る。この言のやあを。笑。は。る。は。胸。ま。づ。い。く。ゆ。ぐ。り。つ。宣。の。所。理  
 けれど。又。この言。あ。も。な。り。て。ほ。ん。ぜ。よ。つ。が。父。司。馬。順。徳。ハ。王。女。の。誕生





司馬順徳  
縁死  
其のつまや  
赤子を抱て  
宣野湾へ  
脱る



司馬順徳  
が王の代り  
て死に祈  
に山  
信録  
と先後也

はしやと年小寛狂ふ討てられ縁故を今とふ。口説く涙の  
よひ出は十の年。五年前の秋のころ君王いへ病をひて命危  
うしうが順徳ふくこれを勤む君真物お祈誓してその身をり王  
お代り死にとねがふ願ふの誠忠を神も憐れや。王の病愈まひと  
あつた小信人む。竊ふその幣帛に血を塗釘を打。司馬順徳こそ  
物体あつても君王を調伏し。おのれこの困を押領せんとこと。饒者の舌の  
剣の鋭く王の心う鈍たれば。これを穿奉じて。縁故を正したまふ。ど  
かて討手と向られり。されば可惜忠臣も身のゆれ衣ははくあつた家  
ふ火を放順徳の腹くれ切く失ふれば。主ふからぬ家隸郎黨に  
ちがへはしらぐ煙の中お死するもの。おおられて生拘られ首と切らる  
もの。母の父が後妻あて。ふがふお継い。と。おまは権し。

辛くて當歳なる味真落をうた抱き後門より走り出往方あつた  
ありぬとも。又猛火の中お跳り入る。親子三人ひとり煙と立沖ぬとも  
はええ。定らるるべ。そのとたか牙も父の罪およめて。宮中お追る  
べりし小玉女胎内おおはして既お臨月するまで。その制度  
及びれも。只王妃おまらねるを止られ。利氏を納て中婦君と  
ま。このる利勇叔侄が所行あり。とあれども女子の悲しみの明白  
あひあはしむ。とえて汀の独木船。おとりうらる。國頭の守郎乃  
濱の小夜街形なれ牙を泣む。歡樂お他人取ら。艱難お親戚  
離ると世の世言おりるも。父順徳討れ。後の従身あり。毛  
毛國野の三針おちか。針の針お。中おいく。王女お産を。王もややくに曉ぬ。順徳



及討せしむ。後悔の存氣をええて。ふが身は憐れどもふ赤心は少し。そ  
夏を慰めり。王女の成長をみゆ。まろひありて世子と仰がれ。人を  
手代百代。後祝ふ。十之の先の命を化して。民を救んと宣はれ。心  
仁をいさること。おがら。その臣下の入。おこそめれ。國の為。躬を愛する  
を賢れ。君とせらる。はし。ひたれる。宜ひ。そ。と言語を盡して。とがひ  
と。ハ。王女。熟。果て。歎息。朝。あ。せ。れ。て。死。と。蜂。蜂。と。い。ひ。出。せ。り。  
命。の。惜。む。と。と。つ。の。を。親。の。歎。き。も。か。り。ん。ど。世。の。護。の。國。を。棄  
王位を棄て。只。管。お。死。ん。と。ね。が。ふ。あ。の。ね。ど。か。と。れ。ど。父。王。ハ。後  
者。の。ま。う。ひ。を。実。言。と。して。人。を。疑。ひ。も。あ。り。あ。り。と。せ。ら。れ。よ。う。て。此。度  
我。ま。ら。う。べ。れ。の。を。募。ま。ふ。お。その。人。を。い。ま。ら。う。と。ハ。吾。儕。を。こ。そ。と。お。が。ら  
は。も。利。勇。お。が。ら。と。め。て。不。思。議。の。仰。あ。る。ご。う。も。量。が。ら。し。その。と。れ

固辞もするとも。さ。は。と。て。許。さ。ら。ん。や。は。し。又。別。お。その。人。あり。とも。罪  
な。れ。の。及。殺。さ。ん。の。の。お。小。摘。く。と。痛。は。し。異。國。の。い。お。へ。と。老  
たる。親。を。野。お。も。棄。山。お。も。棄。劍。あり。と。笑。く。ハ。実。然。是。ハ。又。と。れ。お  
も。お。ら。ぬ。神。慮。人。を。り。て。我。ま。定。る。國。俗。を。悲。け。れ。夫。来。ら。ん。と。且  
く。も。お。が。め。が。と。れ。ハ。有。為。將。變。の。理。り。去。て。さ。ら。び。ゆる。さ。る。ハ。冥。土。黃  
泉。の。別。と。し。愛。惜。哀。慕。の。悲。し。と。入。テ。よ。じ。め。ね。る。み。な。れ。を。本。の。露  
未。の。粟。先。が。ら。も。後。ら。も。別。と。い。ひ。つ。と。お。ら。じ。か。ら。ん。と。せ。ら。れ。ん。と  
い。く。つ。と。立。わ。が。ら。ん。と。し。ま。ら。袖。を。廉。夫。人。と。い。ひ。て。こ。の。物。お。や。お。ひ。ま。ら  
君。王。の。仰。あ。る。は。是。非。お。及。が。ら。と。ら。う。と。求。め。て。牛。馬。お。を。比。し。ま。ら。ゆ。ら  
ハ。と。送。お。練。め。練。ら。れ。緯。果。し。な。れ。折。し。も。あ。れ。按。司。毛。國。典。咳。して。廊。の。方  
より。繞。り。入。り。欄。干。の。あ。ら。と。半。掲。ま。し。と。れ。羽。卒。廉。の。は。と。り。お。路。踏。り。





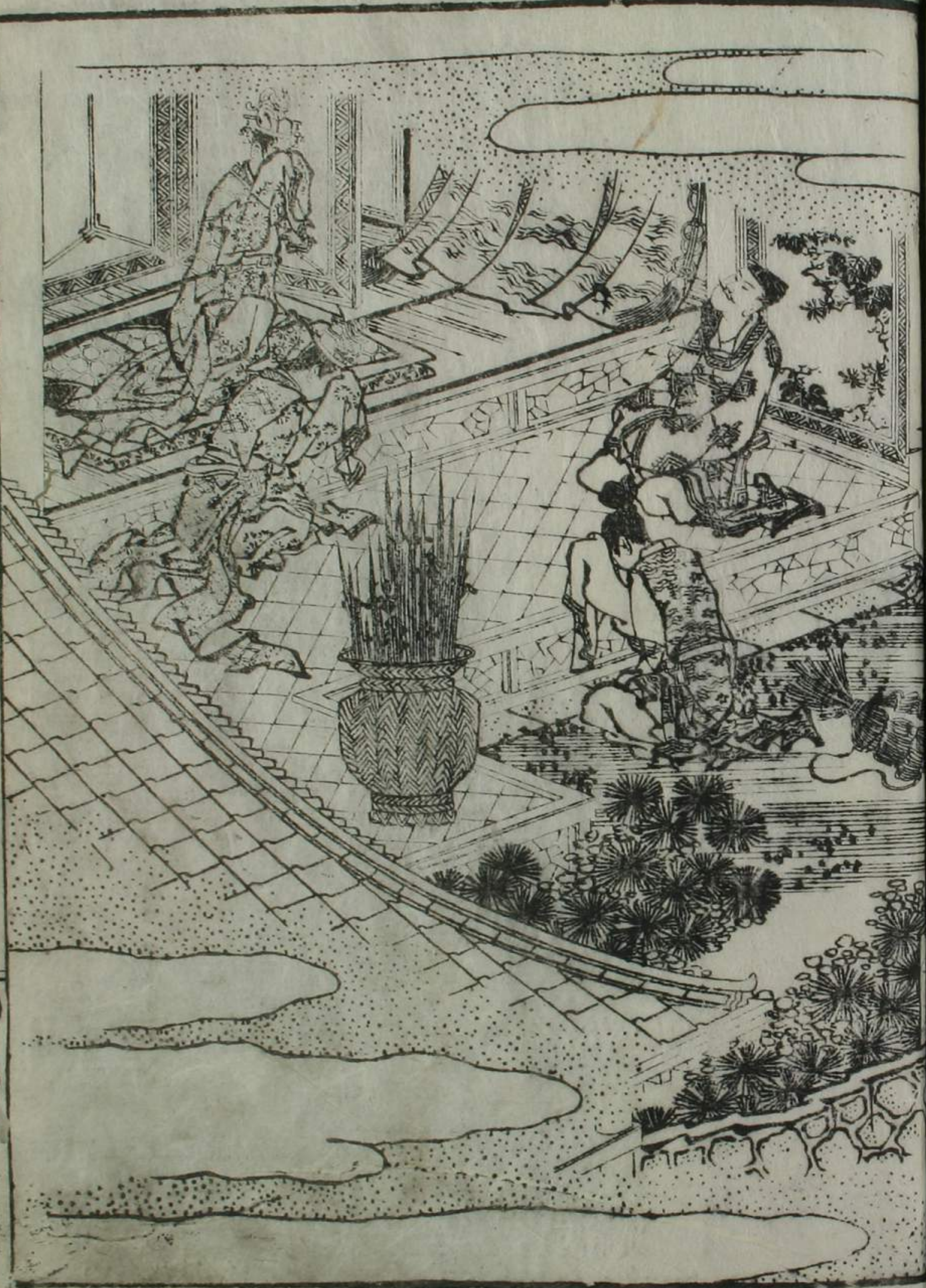


毛國典がてりへむ。おん身お恙あるべうらゆらむと。あはしがほも危を  
 に臨しちしんんと公若しくあ折ら。さうらほも様とおらん  
 けうらひ女子をおくありてぬ。こやくとほくけて外面をさし招けむ。  
 をいといてて花園の諸折戸を押しりた走り入つ孫相の縁よまを  
 かけ伸上る賤女みか容止の磨りて清れ玉ぞ巻く。芭蕉布の單衣  
 を裾短お引折て府衣の帯結び上げ。脊お肩さる葛裏の軽打  
 扮も愛敬つれと。幸ハ三五の月の眉合る花をえれかごとし。當下  
 毛國典ハ王女廉夫人おまうけ申す。はれせよ彼の宜野湾の山里よ  
 窈窕くして母お養ひ芭蕉布お織て生活とをとりあるがむけ且と  
 王女と同庚申してありも。月辰の日辰の時申せしとぞ。よりて身  
 賣り様まうんとて小臣お家お尋る途中。これと浦添山の麓お

新設具志川直野の屋

いとめひ情由とめて直おぼくありぬ。やよ小お女お素生火審お  
 せうせ。さうくこのそせハ少女の臆せ一氣色もおく。藁裏お押用  
 了。位牌ニッともりおして。縁類おあへ居名告まうけも取れしれ  
 ども。ハを國頭の按司司馬順徳が女見おて。真諦とゆれけり。  
 父討おつる頃ハ纏繰の中おのりし。何れたおひ辨けり。さうし  
 物づめをおげえてある。父の最期の夢なれや。そのとれ母お懐られ  
 抱て猛火の中。刀剣の下お脱お出。是首彼首お支潜し。雨お濡れ  
 母路おさぼら。養育おとて。さ木の高お恩恵し。亡父の冤狂  
 の縁由おやくに悲しく朽をくた宜野湾おらうた山住お跡お埋め  
 名を匿し。世おあるか。ハも新城親子うく。具志川お袖おひしつ  
 泣あせし。行は母お章の媪。よりて章の媪といふ。之幸以来長れ病お





毛國鼎  
 真鶴子  
 王女  
 夫人  
 見

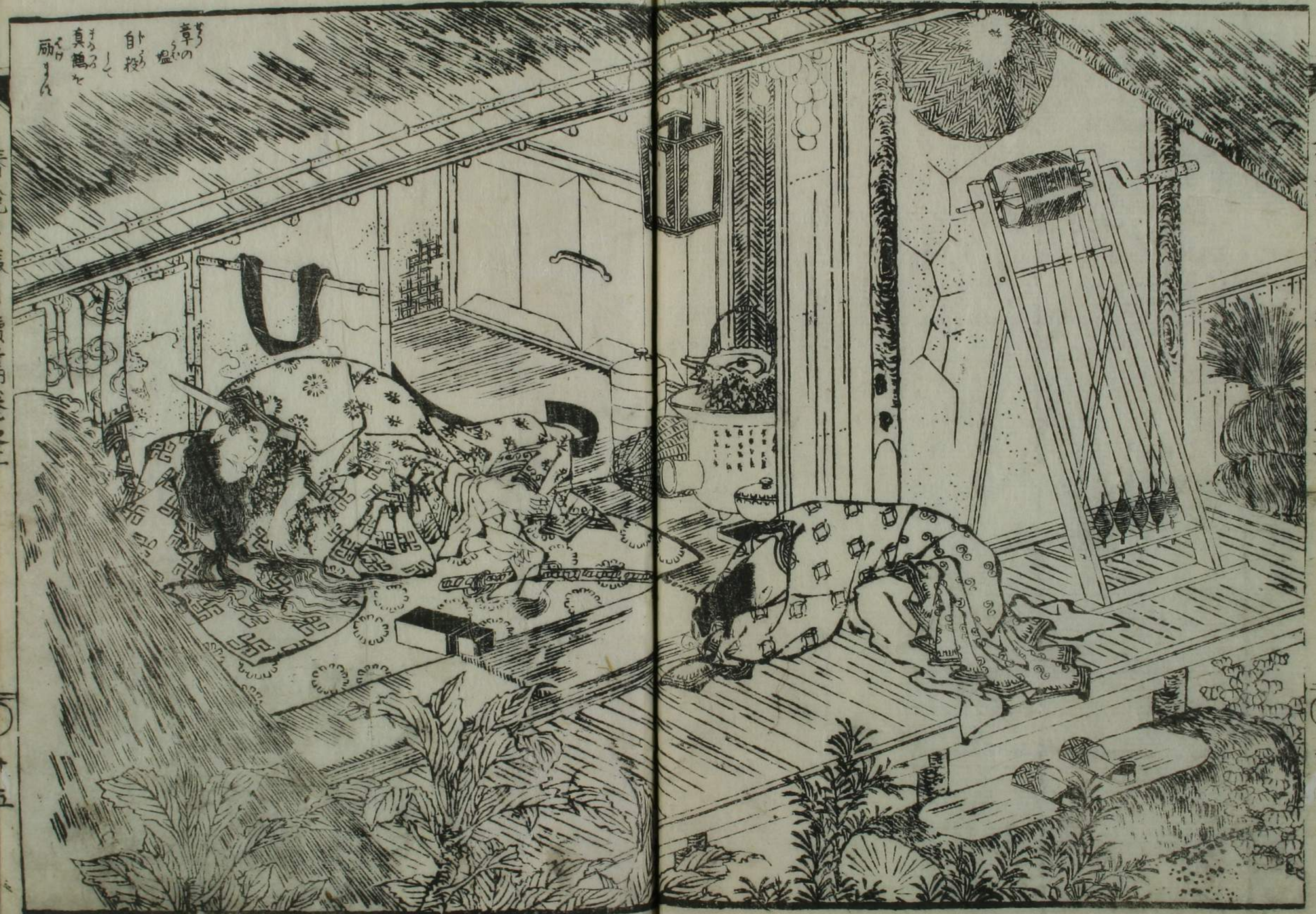


うちけり。反哺の孝も貧乏の家ハ意お任せぬ。茶の價廉し。詰る  
艱難ハ同射ゆる友もなし。婿君ひとりありと云々。けと都の花は鄙の月  
曇るり。がらなれ。才と恥。風の便もよすが好く。うら。このこおひ。ひ  
まろふ。今度大王より。辰の年月日時よせれ。女子あふ。孫は進ませ  
と國中お令あつして。普く募るへも。あるりのな。し。王女さ。う  
おん躬に捨て。孫あなり。まふと風声を。母これをすて。大は驚馬た。た  
おし。り。り。の。辰の年の。月上の辰の日辰の。時お。れ。る。か。こ  
ら。廉夫人懐胎おて。後の。流生ハ臨月あるは。とせ。ね。さ。る。国。の。月  
辰の日辰の時。お。王女誕生。ま。し。く。け。や。國の。為。こ。と。世子の。躬  
を捨て。孫。となり。ま。ふ。と。誠。か。ね。る。ま。れ。と。悪。人。を。か。や。さ。め  
て。か。れ。不。思。議。の。制度。あ。ら。う。お。せ。ん。母子。忠。義。の。命。を。限。り。て。ま。ま

山崎山ハ  
宜野山ハ  
普天間  
伊祖の村  
浦添山ハ

の汚名を雪いべ。は。る。の。所。今。こ。も。あ。れ。は。も。國。頭。の。按。司。司。馬  
順徳ね。の。女。見。あり。事。ハ。臨。之。朽。了。れ。奉。止。して。氏。も。三。月。お。不。及。と  
て。笑。れ。ま。る。廉。夫人。ハ。お。ん。が。か。つ。あ。る。が。為。あ。の。義。理。あ。る。子。に  
王女ハ。君。あ。て。ま。し。し。せ。も。世。お。あ。の。外。戚。の。稱。を。の。汚。ま。じ。か。れ  
ハ。恩。義。い。と。く。重。し。と。中。城。お。お。り。お。て。親。族。も。按。司。の。名。告。め。し  
母。の。志。を。も。り。ひ。あ。り。して。此。度。の。孫。お。あ。り。の。へ。お。れ。熱。心。の。病。體。ひ。く  
終。の。こ。ろ。ハ。お。ん。が。今。般。の。公。か。つ。も。ま。り。なん。し。う。ら。ら。面。あ。る  
お。伏。して。後。の。お。ひ。あ。せ。じ。と。し。ひ。も。果。を。枕。の。下。お。か。く。し。あ。れ。ま。れ  
短。刀。を。隠。り。と。引。抜。れ。自。害。と。て。失。ま。ひ。し。母。の。最。期。お。陳。ら。れ。は。ち  
は。し。ぬ。一。世。の。別。し。い。と。涙。ふ。れ。竹。の。よ。め。れ。公。を。鬼。よ。し。う。さ。う。し。て  
亡。骸。を。煙。と。り。して。ま。の。げ。る。浦。添。山。も。う。く。め。し。く。世。お。ハ。安。波。茶。の。里





真鶴の  
自投  
麗人

本言石別月綱存卷之二

九四



遠れ勤まの今も普間山。とより旅ぶら枚港。いちばとすれど伊祖村の  
 あろこふえゆる姑場嶽。これやふが舟の死出の山。沙女は女。冥土の中城。漸  
 尋ふありし。足はこれ父の位牌。これハ又母の位牌。親子二人が切なる願  
 命あされ。亡父の忠義。死してはし多ひね。ととひ定ぬ。物か。長は袂  
 を絞る。廉夫人ハ。毎ふ。れ。拭へ。も。も。あり。落る。千行の涙。沸か。り。  
 ああ。ま。ま。んと。牙を殺し。子と諫る。母親の。最期を。今も。え。る。公地。一。そ。  
 轉ひ。出つ。二。ツの。位牌を。袖。抱。は。く。亦。あ。じ。袂。入。ご。り。歎。ま。じ。か。中。う。や。  
 小。涙。を。拭。ひ。喃。さ。の。語。れ。こ。そ。ハ。何。れ。か。好。又。恐。く。も。思。う。る。ハ。王。女。あ。ま。  
 在。と。な。れ。そ。も。も。か。父。ハ。世。ハ。稀。なる。忠。臣。な。れ。ど。過。世。あ。り。て。諺。者。の。舌。  
 の。劍。あ。て。討。と。多。ひ。一。その。ち。ハ。母。の。往。方。も。妹。の。も。も。い。ひ。あ。れ。ぬ。九。重。の。  
 國。津。都。お。給。ふ。人。の。好。ハ。海。氷。を。泳。る。と。い。ハ。水。鳥。の。浮。海。上。待。ぶ。ま。あ。お。

とも。忘。る。隙。ハ。ま。う。し。再。逢。え。ぬ。お。り。ひ。の。教。う。る。母。の。最。期。を。か。け。つ。が。  
 る。は。歎。ま。ふ。倍。と。袖。の。雨。降。く。涌。る。今。度。の。難。義。産。ま。り。姫。子。み。お。  
 代。ら。ん。と。い。ふ。その。人。ハ。母。ハ。義。理。の。妹。あり。と。ても。か。く。ても。安。う。ね。公。の。  
 駒。も。勇。難。く。お。ま。じ。道。み。を。踏。迷。る。強。面。の。の。命。と。い。は。く。み。く。又。  
 よ。と。泣。ハ。せ。の。語。ハ。塔。お。走。り。登。り。ん。と。して。舟。を。取。らん。登。り。も。え。せ。と。伸。  
 上。り。その。好。君。あ。て。お。ろ。せ。し。後。恙。な。れ。お。ん。顔。状。と。り。こ。れ。る。年。暮。の。  
 志。ハ。致。し。たり。命。う。れ。れ。お。ま。り。つ。る。生。の。語。お。お。を。と。く。と。て。不。覚。お。  
 歎。ま。ま。の。中。ん。情。ほ。と。怨。ま。れ。ハ。寧。王。女。ハ。是。彼。の。公。の。ら。ら。と。思。ひ。  
 かり。感。涙。と。び。あ。め。あ。る。と。あ。れ。の。の。げ。せ。よ。と。仰。ま。れ。ハ。毛。國。典。と。い。  
 多。り。あ。か。て。せ。の。語。が。手。を。携。て。は。と。り。近。く。お。て。こ。ま。り。つ。王。女。つ。く。と。  
 膚。し。て。揃。ひ。も。そ。ろ。ひ。親。子。ハ。忠。孝。け。お。順。徳。が。妻。と。子。なり。か。く



有りては孝女を殺さる。いづれ神の受納の志の賞とておのれ  
 のれど。是をしも忍ぶべく。人にしてこれら。獸も若りるん。こゝろなれど。  
 諭し多へ。その勢の面正しく。その仰も。せんさ。かゝるせふ。さらけ。びら。  
 りづれの時ある。父が汚名。狐聖も。たて。され。その勢が。命の。君と親  
 こゝろ。近。さる。狐。食。つけ。られ。ぬ。おん。に。公。な。れ。お。似。たり。さ。の。お。あ。さ。  
 ぢや。と。回。答。つ。好。の。う。こ。お。ん。え。と。不。廉。夫。人。貞。氏。で。健。氣。こ。の。能。  
 忠。と。孝。と。お。え。を。辱。る。世。再。比。な。れ。少。女。と。と。答。言。ら。う。薄。命。貧。乏。家。  
 お。母。を。養。ひ。こ。ろ。長。年。を。春。や。も。あ。る。と。合。な。が。ら。お。散。る。花。の。牙。は。る。  
 果。の。痛。し。と。て。代。ら。う。これ。も。も。あ。ら。ね。い。く。回。敷。と。て。も。その。か。ひ。る。  
 されど。今。環。會。喜。し。は。お。聖。の。別。を。お。ひ。や。れ。て。ゆ。る。胸。若。し。と。か。い。拵。  
 る。腕。も。ち。う。か。な。び。む。ら。り。され。ば。と。て。寧。王。女。は。な。ほ。これ。を。許。し。あ。ら。ん。

さやぐに諭し多へ。毛圃。丹。す。と。き。て。王。女。も。夫。人。も。心。を。安。く。お。な。り。  
 ら。れ。よ。その。勢。な。り。て。様。と。る。と。も。小。臣。と。う。ら。あ。べ。れ。中。り。あ。れ。ば。命。を。預。  
 こ。と。る。さ。の。い。じ。一旦。彼。が。忠。孝。と。す。え。あ。が。父。順。徳。が。寛。枉。を。ま。し。と。れ。  
 て。お。ん。赦。を。蒙。ら。せ。ん。為。お。假。し。様。あ。の。進。ぶ。さ。る。の。と。彼。世。の。中。ひ。ろ。く。な。う。と。  
 この。中。城。殿。お。給。り。し。ま。う。は。生。親。雲。上。子。親。雲。上。の。ま。ら。ま。ま。う。り。て。よ。れ。お。備。お。  
 め。ひ。る。ん。何。れ。も。小。臣。お。う。ら。ま。し。め。入。と。て。い。と。頼。し。く。ま。ら。し。け。り。

椿説弓張月續編卷之二 畢



貧乏の味

讀書の味

性

賜

へ

學  
興

言  
口  
引  
月  
結  
合  
全  
書  
之  
一

三  
八  
年  
平



